



「愛宕小学校」学校だより

あたごっ子



【平成26年12月25日（木）発行】

年の瀬を控えて

校長 富澤 将志

今年もあつと言う間に過ぎて、残りあと一週間程になりました。何かと気ぜわしく落ち着かない雰囲気です。子どもたちは、クリスマスあり正月ありで、プレゼントやお年玉にテンションの高まる時期だと思います。子どもの頃の年の瀬の思い出は普段とは違う家族の心のつながりが感じられたり、昔からの「しきたり」に触れられたりする機会です。この体験は子どもにとって、物やお金では得られない掛け替えのない思い出になると思います。

大掃除、餅つき、年の市、注連飾り、年越しそば、除夜の鐘・・・日本には昔から伝えられたものが今も残っています。古くさくて意味が分からなくなりそうなものもありますが、伝えられてきた生活の知恵と精神は、それだけの価値あるものだと思います。

私が幼いころは家で杵と臼を使って餅をつきましたが、12月29日を意図的にはずしていました。また、「一夜飾り」と言って大晦日に門松や、松飾りを飾ることを避けたりしていました。どれにも「いわれ」があるようで、昔の人たちは暮れの用意をするにも心を込めていたことがわかります。もし、欧米の人がクリスマスの「いわれ」を語り、次に暮れや正月の「しきたり」について質問してきたならば、私たちは説明できるでしょうか。「お・も・て・な・し」までにはならないかもしれませんが、細やかな心の存在を「しっかり」と知り、「はっきり」と説明できるように、この機会に調べ、家族で一緒に準備することもグローバル化が進む今、重要なことだと思います。

また、これからの時期はますますインフルエンザやノロウィルスに感染してしまうようなことが増えます。自分の体は自分で守る意識をもたせて感染予防できると一層充実した年末年始になると思います。元気で有意義な冬休みを過ごし、全校児童が掛け替えのない思い出をたくさん抱えて登校してくる三学期の始業式が楽しみです。

楽しい冬休みになるために

明日から冬休みになります。長い冬休みです。次のことに注意しながら有意義な時間となるようご家庭でのご指導をよろしく願いいたします。子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保護）、一步一步にあれこれと指示をしたり（過干渉）はしていないでしょうか。子どもが好きなことを見付けるまで待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、力付けましょう。あれこれしないで見守ることは、ものを買ってやったり何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情がいることです。また、大人は自分が子どものために考えたことは正しいと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつける



のではなく、「あなたはどう思う？」と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、「自分はこう思うのだけど」と、一緒に考え学んでいく姿勢が大切です。子どもが考え、勇気をもって行動し、達成感を味わう、または失敗から学び強くなるチャンスなどを子どもから奪わないようにすることが大切です。子どもたちの自己中心的な言動や自立の遅れの背景には、自己責任の考えが身に付いていないことがあります。とかく私たち親は、子どもを甘やかしがちで「自分のことは自分でする」などのしつけがなされていないことが多いようです。例えば、年齢に応じてお小遣いの額やお手伝いなどの家庭内のルールを決め、子どもの成長に応じて責任と自立を促していくことが大切でしょう。「自分のほしい物を自分のお小遣いで買う」という経験は、子どもたちにとってかけがえのないものです。そういう意味でも、長い休み中は、こうした力を付けるいい機会です。また、「お手伝い」は、生きていく上で最低限必要な家事を学ぶ第一歩と言えるでしょう。買い物に行けるようになったり、家の中の整理整頓などができるようになったりすることで自信にもつながります。しっかり、計画を立て、規則正しい生活ができるようにしてください。

2学期を振り返って

鑑賞教室



本日で実りの多かった2学期が終了します。保護者地域の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご支援をいただいていることにお礼申し上げます。いろいろなことがあった2学期でした。愛宕っ子の確かな成長を感じることができました。

窓拭き清掃活動



どんちやかまつり



保護者ボランティアによる読み聞かせ

